軽さが進化した
ニューラインアップ。

通気性と防水性が合体した
ニューエアリー採用。
ウィングゾーン OD-L ¥11,000
16KH-40109 サイズ:23.0〜29.0
ホワイト/パープルにブラック/ゴールド 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE

アウトドア専用のグリップ性能。
ウィングゾーン OD-S ¥7,900
16KH-41162 サイズ:23.0〜29.0
ホワイト/ネイビーにレッド/シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE

攻守に、弾む。ハンドボール協会公認の検定球、準検定球。

16OH-202
¥4,700
検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2

16OH-203
¥4,800
検定球
亀甲型
天然皮革3号
HL-3

16OH-212
¥4,400
準検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2A

RUNBIRD
ATHLETIC FOOTWEAR

●記載価格はすべて税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。
●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は——「ミズノお客様商品相談センターMUSIC」 TEL:東京(03)3233-7110 大阪(06)614-8110

◆日本協会だより◆

■1月度常務理事会

1月13日(土)於日本協会10：30～17：00

出席者　中沢専務他8名

議事

1、平成7年度第二次補正予算案審議
特に審判関係（レフェリコース開催）補正

2、平成8年度事業予算審議
審判　全日本総合外人レフェリー招聘。
日本リーグ　新規加盟料100万、再加入の加盟料徴収しない。
強化　原案通り1億5千200万承認。
企画、広報　原案通り。
特別申請　国際試合は強化部より　海外遠征を国内強化に切り替える。各事業費　10%カットして500万捻出する方向
全日本男女PR男子のみ計上。機関誌　平成8年度よりA4判。広告料集める予定。
国際　事務諸経費で対応

3、熊本世界大会関連
2月バーゼルにて打ち合わせ予定
全国展開のPR必要

4、社会人大会並にクラブ大会
大会要項配布　クラブ大会東西25万補助

5、世界大会支援　熊本
個人レベルに支援もとめる「世界大会成功させる会」（仮）

6、全日本総合　女子世界大会報告

7、東アジア大会にハンドボール種目実施の働きかけ至急おこなう

8、第51回国体　少年男女日程変更について
総合開会式のあと開始式実施承認

9、AHF、IHF（アトランタ）日本協会代表について
IHF　渡辺副会長、中沢専務
AHF　井常務理事が出席

10、故湧永儀助顧問、故立石孝雄副会長に特別功労賞を遺族に授与することを了承

11、副会長後任人事問題
中沢専務理事が正副会長会議で検討

【3月の行事予定】

8－10　コーチ・レフェリーシンポジウム　東京・オリンピック記念青少年センター
16　常務理事会
24－28　第19回全国高等学校選抜大会　愛知県体育館他
28－30　第20回日本リーグプレイオフ　東京体育館

ハンドボール　3月号

CONTENTS

トピックニュース

95年日本スポーツ賞に横浜商工高受賞

1995年のスポーツ界で活躍した選手、団体に贈られる第45回日本スポーツ賞の（読売新聞社制定）の表彰が1月18日東京のホテルにて行われた。

横浜商工高は、選抜、インターハイ、国体（神奈川県選抜主力）と制し、その活躍が認められたもので、トロフィー、賞状が贈られた。

95年日本スポーツ賞を受けた横浜商工高

97世界選手権プレ大会（ジャパンカップ）

男子世界選手県大会を1年後に控え、プレ大会（ジャパンカップ）として4月9日～14日まで熊本県内にて行なわれる。

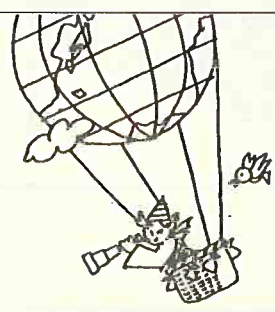
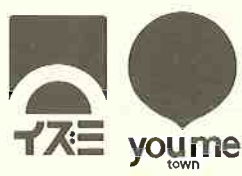
参加国は日本チームも入れてすべてナショナルチーム8ケ国を予定している。

試合会場は熊本県立総合体育館ほか。テレビでは全九州地区にて放送予定。

日本リーグプレイオフ日程決まる

第20回日本リーグは各チームのつぶし合いにより混戦、どのチームがプレイオフにのこるか大変興味深くなってきた。

この程日本リーグよりプレイオフの日程が次のように発表された。

昨年のプレイオフから。今年も熱戦が期待される。

トピックニュース●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

指導(CCM)専門委員会より

◆平成8年度C級ハンドボールコーチ養成講習会について◆

日本ハンドボール協会並びに日本体育協会では、平成8年度公認C級ハンドボールコーチ養成講習会を開催する予定であります。つきましては、講習会の流れの概要を報告いたしますので、各都道府県協会、各連盟、また関係各方面におかれましては、受講者の推薦をよろしくお願い致します。なお、詳細は決定次第報告いたします。

1. 受講基礎資格　平成8年4月1日現在満22歳以上
2. 養成科目
   養成科目は全競技共通科目とハンドボール専門科目があります。共通科目については体育会系大学等を卒業したものについては、共通科目の全部または、一部の免除措置があります。
3. 開催期日

(1)共通科目

集合講習：平成8年9月(前期)、12月(後期)の2回に分けて、それぞれ4泊5日で実施する。全国3～4会場で実施。日程に合わせ、いずれかの会場で受講する。

通信教育：平成8年9月～11月の3ケ月間実施する。

(2)専門科目

平成9年2月か3月に集合講習にて実施する。

4. 講習会実施の流れ

平成8年3月中旬より4月中旬　受講者の募集
4月下旬　受講者名簿を日体協へ提出
5月中旬　「受講内定」を受講者に通知
8月下旬～10月末日　共通科目集合講習
9月～11月　共通科目通信教育
11月末日～平成9年1月末日　共通科目集合教育
平成9年2月もしくは3月　専門集合講習会

3/28(木)未定　女子入替戦
18:30　女子準決勝
3/29(金)未定　男子入替戦
18:00　男子準決勝
19:30　女子決勝
3/30(土)未定　男子入替戦
15:00　男子決勝

会場　東京体育館
入場料前売り　一般　1,700円
中高　1,000円
当日　一般　2,000円
中高　800円
※前売りのみ　ペア(2人)券　3,000円
中高(6人)券　3,000円

なお、3月28日～30日、テレビ神奈川がテレビ放映予定をしている(時間未定)。

ドイツより(フェルデン)チーム来日

新しいシーズンが始まる4月ドイツよりオーバーリーグ所属のフェルデンチームが来日し全日本A、全日本B実連所属チーム5試合を行なう。全日本実業団連盟が招したもの

4/2　来日
4/3　全日本A(東京体育館)
4/5　北陸電力(北陸電力体育館)
4/7　全日本B(大阪舞島体育館)
4/8　徳山(徳山スポーツセンター)
4/10　広島選抜(東区スポーツセンター)
4/12　離日

◆第12回世界女子選手権大会報告◆

第12会世界女子選手権大会を観察して

常務理事　山下　泉

12月3日、10時45分成田空港を出発し、17時間かけてフランクフルト経由でオーストラリアのビェンナ空港に到着した。沖本ドクター、平野トレーナーと私の三人の長旅であった。宿舎はウィーン市内でなく30キロ郊外の田園都市ストックローの中心に位置するホテルドライケーニッヒショフ。新築まもない大変きれいなホテルであり、規模は小さく、日本チームの貸切り状態で、環境として申分ないものであった。

熊本大会のPRレセプション

今回の女子大会はハンガリーとオーストリアの二つの国での開催であり、レセプションも二ケ所で行った。取材や視察には大変不便であり、実行委員会の人も分離開催は問題ありと言っていた。オーストリアのIHF本部のホテルアナナス（ウィーン）で5日と6日の両日開催した。試合が遅く終る為夜9時から12時までの3時間。熊本事務局の村上、井本両氏と協会は渡辺副会長、中沢専務理事、木野常務理事と私の6名、そして通訳3名で応対した。IHFの審判部長エリック・エリアス氏他、役員、レフェリー、組織委員、マスコミの人々、そしてCWLのクラウス・アンデス氏など連夜35名近くの参加を得た。特に朴氏（韓国・IHFPRC）には沢山の参加呼びかけに協力して頂き感謝します。

ストックローの練習会場を視察する筆者

ウィナー・ノースタッドの会場、雪の中のメインスタジアムだ

ハンガリーのブタペストはドナウ河畔にある高級ホテルフォーラムで行った。

6日の正午から2時半まで、IHFの事務局長レイモンド・ハーン氏他40名の人々の参加を得、特にハンガリーのプレス関係者が多く、日本に対する関心の高さを示していた。地元のTVの取材を渡辺副会長がうけるなどこれまでハンガリーチームの日本招へいの効果が表われており、交流の大切さを痛感した。特にこの日は渡辺副会長と二人でウィーンとブタペストを行きは飛行機、帰りはオリエントエキスプレスと大変な強行日程であった。

IHF本部組織委員会

オーストリア側の本部のホテルアナナスは建築後相当年数を経過したホテルで、レベルはどうみても4星には程遠いものであった。役員、レフェリーと組織委員会くらいの宿舎であるが、ロビーには大会デスクはあるが担当者が不在の時が多く、これが選手権大会本部かと疑うほどの静けさ、玄関先は歓迎などの表示もない状態。役員関係者は試合開始1時前に試合会場に到着することになっており、5台の乗用車で輸送をしていた。

会場はいずれも遠距離にあり、役員も相当ハードだと話していた。大会事務局は15坪の広さに5、6名のスタッフで担当していた。

ブラペストの本部は当部フォーラムホテルとガイドに載っていたが何故かホテルタベルナに変更されていた。ウィーンよりももっと質素で資金的な面で苦労が伺えた。ロビーにはデスクなし。時間がなく本部を尋ねることができなかった。

試合会場と収容人員

オーストリアのメイン会場のウィナー・ノースタッドはアレナ・ノバというコンベンションセンターに仮設スタンドを造作したもので収容人員5000人である。これから企業を誘致する予定で付近は建物もなく、雪草の中の体育館であり、交通も不便で、観客のほとんどはマイカーで来ていた。コートはタラフレックス。広告ボードはこの会場のみ電気回転式を採用し、コートサイドの最前列にゴールドスポンサーとVIP用の4人掛のマス席が名前入りで20位設けてあった。スポンサーを大切にする気持ちの表れであり、参考にすべきである。VIPルームはビールやコーヒーの飲物の他、料理も沢山の種類があり、質量とも満足出来るものであった。立食のみで椅子はなし、プレス席、記録本部、ドーピング室、選手控室、レフェリー控室等は完備されていた。

IDカードの確認は神経質なほど行っていた。

地元チームの試合は観客も多く、得点アナは地元一辺倒で放送し、大会を盛り上げていた。大会プログラムは沢山あり無料で配布されていた。オフィシャル用のガイドブックはポケットサイズ（10㎝×23㎝）で非常に便利であった。その他の会場は小さくて参考にならない規模であり、コートは木製であった。

入場料と販売グッズ

チケット当日売は予選ラウンド20シリング（100シリング約100円）、セミファイナル330シリング、VIPはパッケージされており3300シリング、子供は半額。売店はTシャツ、大会ポスター、テーマ曲のカセットテープ、ぬいぐるみなどを販売していた。大会のメダルやタイピンは何故か銀製のみであり、高価な為にほとんど売れていなかった。

宿泊・輸送

　チームごとエスコート係と通訳がつき、バス1台が練習と試合の為に用意されていた。試合のない日に対戦予定チームを見に行動する為のバスはなく、近くのスウェーデンチームのバスに便乗することで解決した。勿論団長、視察員用の車はなく、また、ストックローの町はタクシーがない為にホテルで白タクを用意して行動した。

　結構、料金は高く、交渉で決まるといった状態であり、足は非常に不便な思いをした。

まとめ

　女子の大会であり、二つの国の分散開催の為か、全般的に盛り上がりに欠け、期待はずれの印象をうけた。資金面で担当苦労をしたとオーストリアの組織委員長の言。特に最後までIHFとCWLとの駆引を含む交渉には苦労したらしく日本も決意をして下さいとの事。熊本大会も資金面を除いて、運営能力については自信をもって大会まで準備をする事が肝要であり、行きすぎたサービスや無駄は省き予算のスリム化を考慮する必要がある。

　最後になりましたがこの度の遠征でオーストリア伊藤忠㈱の関社長様には日本選手団に日本食の御馳走になり、又通訳の手配など大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

男子に近づきつつある女子の技術

日本女子体育大学　**笹倉清則**

大会概要

　今回の女子の世界選手権大会視察並びに情報収集は、1990年間韓国において行われた前々回の大会の視察以来となった。韓国での世界選手権の時には会場にはほんの少数しか観客が入場しておらず男子に比べ女子はマイナーであると感ぜざるを得なかった。しかし、前回1993年のノルウェーでの女子の世界選手権をビデオ等で観ても毎試合観客が2000～3000人入場しているというように急激に変化していった。その変化の陰には当然女子選手の体力の向上、技術の向上、戦術の向上があり、その進歩は目を見張るものがあった。

　今大会では、初めてのオーストリア、ハンガリーの2ケ国による地理的に遠い5つの会場での同時開催というような問題はあったにしても、全体としては大変盛り上がりのある大会であったように思われる。

　大会の試合内容は、一言で言えば女子の技術・戦術がますます男性に近づきつつあるということである。女子選手の個々の技術のバリエーション、それの完成度とスピードがほぼ男性と近いものとなりつつあるということである。

　極端に言えば日本の男子チームの中でこの女子のトップレベルに確実に勝てるというチームがいくつあるかと考えてしまうほど高いレベルを身につけ、それがゲームの中で最終場面において大きく勝敗に作用していたことは確実である。

　また、男子のレベルに近づきつつあるとはいえ全体のゲーム様相としては男子の世界選手権大会の内容より一大会づつ遅れているように感じられた。つまり今回の女子の選手権大会は男子の1993年のスウェー

●第12回世界女子選手権大会報告

日本対オーストリア戦。試合前国歌を有名歌手が歌った

デンで行われた前回の世界選手権のゲーム様相に大変近いものと感じられた。つまり、防御より攻撃が勝り、中でも個人のシュート能力のある選手が大変目立った大会といえる。

攻撃面での特色

①セットオフェンス

セットオフェンスに関しては、前回のノルウェーでの大会で見られた戦術が今回も攻撃の中心としているチームが多かった。新しい傾向としては、今大会では比較的低めの防御（フリースロー付近まで）のチームが多かったために、後方プレイヤーによるクロスを交えてのロングシュート・大きく位置取りを替えながらのロングシュートという戦術が多く見られた。

また、これまでの戦術のサイドからの走り込みによるダブルポストへの移行の攻撃も最終的にロングシュートという形で攻撃を終える場面が多く見られた。特にロングシュートでもセンタープレイヤーと左腕のロングシューターによる得点場面もこれまで以上に多く見られた。

つまり、今大会では攻撃の最終場面では、特にロングシューターのシュート力、突破力に依存している場面が大変多く観られた大会であった。逆に前回大会では、得点のかなりの部分を占めていた両サイドでの得点が、防御体系の変化もありあまり見られなかった。

②速攻

明らかに速攻は、より有効な攻撃手段として各チームとも取り入れている。

その最も顕著に現れている点は、これまでディフェンスだけもしくは攻撃だけという選手が当然のように各チーム1～2名おりゲーム中にその選手交代のために間があくという場面が多く、ある意味ではハンドボールの面白味を無くす要因となりかねなかったが、今回予選リーグではまだ勝敗とあまり大きな影響がないときもしくは、選手の調整というゲームに於いてはこれまで同様の交代場面が多く見られた。

しかし、準決勝以上のゲームからは、選手交代のないチーム、また、1人交代するにしても、速攻をしかけその攻撃が止まったところで交代と言うように、ゲーム中の選手交代という場面が少なくなったと観察された。これは、各チームとも防御から速攻というように一連の流れとして捉え、この場面で得点がし易いと

いう考えの基で変わってきたものと思われる。そしてこれまでのような選手交代ではなくある時間1人の選手が攻撃・防御ともプレイし疲れて動きが止まってきたと判断したときに、選手を代えある時間帯をその選手がプレイするという場面が多く見られた。全員攻撃、全員守備の形に戻りつつあるように思われた。

今後のハンドボール、特に女子の場合を考えると当然の傾向と考えられる。また、1994年にIHFのCCM委員であるアラン・ルンドがオリンピックソリダリティーの中で講義したように新しいハンドボールの考え方としてゲームを6局面に分け捉えた時に、我々が今後重点を最も置いてトレーニングしなければならない防御からの速攻の部分と、攻撃から相手の速攻に対する防御の局面と強調していたことと一致しており、世界のトップレベルが新しい傾向に向かって進んでいることが改めて実際のゲーム場面で感じられた。

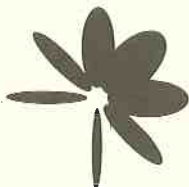
防御面での特色

防御面での特色と言えば、前回大会までは多くのチームが1：2：3防御システムで、9mライン以上までつめるという比較的高い積極的な防御が多く見られた。しかし、今回は、形態的・技術的に劣っているチームは、比較的高めの防御システムで防御しているが、他のチームは比較的低めの防御（8～9m程度のつめ）が多く見られた。スウェーデン、デンマーク（時には1：5）、ノルウェー、チェコ、スロバキア、ロシア、ハンガリー等は0・6防御中心の防御でドイツは動きの良いトップを使った1：5防御、オーストリアは変形の1：2：3（3：3に近い）、韓国は高めの0：6防御と1：2：3の併用と言うように各チームでそれぞれの考え方により、独自の防御システムが観察された。また、0：6防御と言っても今主流となっている男子のスウェーデンの0：6システムとボールを持っているプレイヤーすべてにつめる0：6防御と言うようにそれぞれのチームでの考え方が見られた。

今後は、この各チーム独自の防御システムがより改良されていくものと思われる。そしてより攻撃に対しての研究を進め、どの部分に強く防御するかという新しい方向が生まれてくるものと思われる。防御全体では、これまでの厚みのある防御から、幅の防御（サイド、ポストの防御中心）となり、ロングシュートは壁や、シュート角度を制限してシュートさせる防御が主流となってきているといえる。

まとめ

以上のように、女子のハンドボールをその技術、戦術、スピード、体力共に男子のレベルに近づきつつあることは、明白である。そしてすべての点で前々回男子の世界選手権大会（今回であれば1993年の大会）を追っかけるような内容となっているように観られた。今回では1993年の男子の大会同様にそれまではエリア際での得点が多く見られたのにたいし、ロングシューターの活躍が目に着いた大会となった。したがって次回1996年のオリンピック、1997年の世界選手権大会を目指し新たな傾向を示してくるものと思われる。

攻撃に関してもよりスピードのある、複雑な攻撃戦術を駆使し、全体的には速攻を含め攻撃優位のハンドボールが展開され、かつ最終場面では個人のシュート能力と突破力が勝敗を左右するというハンドボールが今後しばらくは続いていく傾向が強く感じられた。

第4回JOCジュニアオリンピックカップ大会報告

男子 愛知選抜、女子 大阪選抜が ともに初優勝飾る！

期日　平成７年12月27日・28日

会場　堺市立大浜体育館・堺市金岡公園体育館

東　嘉伸（大会競技委員長）

【男子】

▼予選リーグ

●Aブロック

愛知選抜 16（7―8）13 山口選抜
山口選抜 20（11―10）20 北海道選抜
愛知選抜 23（11―8）17 北海道選抜
①愛知選抜は決勝トーナメントへ進出

●Bブロック

神奈川選抜 21（9―9）18 兵庫選抜
福島選抜 22（12―8）18 神奈川選抜
福島選抜 18（8―11）17 兵庫選抜
①福島選抜は決勝トーナメントへ進出

●Cブロック

香川選抜 16（7―8）14 富山選抜
香川選抜 19（13―8）18 茨城選抜
富山選抜 35（20―9）15 茨城選抜
①香川選抜は決勝トーナメントへ進出

●Dブロック

沖縄選抜 36（15―10）15 岐阜選抜
沖縄選抜 15（8―6）12 大阪選抜
大阪選抜 33（15―0）3 岐阜選抜
①沖縄選抜は決勝トーナメントへ進出

▼準決勝

愛知選抜 23（10―7）15 福島選抜
沖縄選抜 23（10―5）15 香川選抜

▼決勝

愛知選抜 19（5―10）18 沖縄選抜

戦評　シュート力に勝った愛知

前半、立ち上がりは両チーム共にゴールキーパーの好守で得点にならず、3分過ぎ、沖縄⑮仲村のポストシュートで試合が動き始め

た。愛知は沖縄の2－4、3－3、のプレスディフェンスを崩せず、また、ノーマークシュートを沖縄のゴールキーパー友利の好セーブに阻まれてペースに乗れず。一方、沖縄はパスカットからの速攻、④宮平のポストをからめた攻撃で確実に加点、前半は沖縄が10－5とリードして折り返した。

後半、愛知は沖縄のディフェンスを④安藤、⑩萩原のフェイントで崩し始め、ペースを取り戻した。残り5分、⑤神谷のサイドシュートで追いつき、安藤の力強いロングシュートでゲット、遂に逆転に成功。沖縄もフリースローからのフォーメーションなど折り込んで追い上げたが、結局、シュート力に勝る愛知が沖縄を振り切って勝利をつかんだ。残り30秒、沖縄のゴールキーパー友利が攻撃ラインに加わり、劇的なシュートを決めるなど、決勝戦にふさわしい盛り上がりで湧く好ゲームであった。印象に残る一戦でもあった。

(順位)①愛知選抜(初優勝)②沖縄選抜③福島選抜④香川選抜

(財)日本中体連北海道ブロック専門委員　清水　勝)

選考経過

多かった有望選手

JOCジュニアオリンピックカップも、今回で、第4回を迎えたが、年を追うごとに充実した大会に成長してきているのは喜ばしい。これも関係者の皆様方のご理解とご支援の賜物と強化を携わるものとして大変心強く、感謝申し上げる次第である。

さて、JOCジュニアオリンピックカップのオリンピック有望選手の選考に男子の審査委員を担当したが、今回は、将来に期待のかかる選手が数多く出場しており、盛況であった。この大会の趣旨として、将来の全日本チームで活躍が期待でき得る選手の発掘であり、この意味からも、今回は多くの選手を推薦したい位の思いであった。(財)日本オリンピック委員会の規定で男女合わせて3名の枠と決定している関係で、男子は1名に限定して選考した。その結果、北海道選抜チームの小田健介君（175cm、66kg）に決定したが、彼は抜群の瞬発力・俊敏さ・闘争心を兼ね備えており、将来十分に世界の檜舞台でプレー出来る可能性があり、今後の精進に夢と期待がかけられる有望な素質を高く評価した。また、本大会の最優秀選手として、決勝まで勝ち上がった原動力と、決勝戦で大逆転を演じた愛知選抜の萩原範行君に決定した。この他にも優るとも劣らない数多くの優秀な選手が出場しており、各都道府県始め、各チームの指導スタッフの皆様がこの大会の主旨をよくご理解願い、オールスター的ジュニアの祭典として、選手の育成にご協力頂けることが確認できた。

どうか今後も本大会の主旨にそった将来に向けた国際的プレーヤーを発掘する「登竜門」の大会として、卓越した素質を有する選手の登場を期待したい。また、本大会の運営にご尽力を頂いた関係の皆様に厚く御礼申し上げ、有望選手選考の報告とする。

(男子オリンピック有望選手選考委員　蒲生晴明)

【女子】

▼予選リーグ

●Aブロック

福井選抜 13(7－0)6 高知選抜
福井選抜 15(7－6)13 東京選抜
東京選抜 16(7－6)12 高知選抜
①福井選抜は決勝トーナメントへ進出

●Bブロック

三重選抜 17(11－9)14 兵庫選抜
山形選抜 22(9－6)13 三重選抜

兵庫選抜17（10—7）15山形選抜
①山形選抜は決勝トーナメントへ進出
（勝ち点7による）

●Cブロック
山口選抜17（10—3）12茨城選抜
山口選抜15（10—4）12北海道選抜
北海道選抜24（11—5）11茨城選抜
①山口選抜は決勝トーナメントへ進出

●Dブロック
沖縄選抜19（8—10）17愛知選抜
大阪選抜21（11—3）10愛知選抜
大阪選抜20（12—10）13沖縄選抜
①大阪選抜は決勝トーナメントへ進出

▼準決勝
山形選抜10（4—3）7福島選抜
大阪選抜24（13—6）8山口選抜

▼決勝
大阪選抜16（13—7）9山形選抜

戦評

バランスのとれた大阪の個人技

山形は、④鈴木の右サイドからのシュートで先行、②加藤のミドルシュートも決めて幸先のよいスタートを切った。しかし、5分過ぎからは大阪のディフェンスに攻めあぐむ拙攻で、8分間ノーゴール。対する大阪は②森本のカットイン、ミドルシュートなど多彩な動きと速攻、ポストプレーで得点、一挙に9—2と引き離して試合の主導権は大阪に移った。

その後、山形も鈴木が得意のサイドシュートで反撃し、一時は互角の勝負にみえたが、得点は縮まらず、13—7で前半を折り返した。

後半は両チームとも決定力を欠き、8分過ぎまで無得点。山形は致命的な7mスローを2本もはずして結局、12分過ぎまで苦しい展開となり、反撃のチャンスを逸したのは痛い。

一方、大阪はバランスのとれた個人技と好守で山形にチャンスを与えず、安定したペースで念願の初優勝に輝いた。

〔順位〕①大阪選抜（初優勝）②山形選抜③福井選抜③山口選抜

（財日本中体連中国ブロック専門委員　河村康男）

観戦記

真摯な試合態度に大きな夢を抱く

今大会は卒業を控えた3年生の参加出場により技術的な展開に幅の広さと深さを加えていることが印象的であった。参加した12チームはいずれもよく指導されており、指導者の個性と指導方針が試合展開や取り組む姿勢にあらわれていて、この時期の指導理念は選手に大きい影響を与えることが伺える。また、選手の試合に対する真摯な態度は将来に大きな夢が持てると確信した。

(1)攻撃展開の特徴

攻撃で印象的であったのが大阪選抜と山形選抜のパスワークとフットワークを含めた高いレベルでの組織的な動きで、シュートチャンスを作り出す展開には驚いた。また、独特な個人技を中心に展開を生かしてシューターを作る沖縄選抜の攻撃にも地域の個性と独特な指導法を見たように思われる。速攻展開はタテ攻撃のランニングパスかロングパスを多様した方法で展開することが主流であた。速攻が成功することは勝敗に大きな関連があるように感じられた。

(2)防御展開の特徴

防御の全体的な印象は、ラフなプッシングもホールディングもなく基本に忠実なプレーがみられ、先生方の繊細な指導のあとが伺えた。中でも大阪選抜の防御は個人の力や技術で守るのではなく、全体の動きを入れ、部分的なコンビネーションがとれる中学生としては、目を見張る展開のヨミができるフォローディフェンスが可能で、とても中学生とは思えない素晴らしいプレーであった。終りに、参加したチームは、すがすがしい印象を与えてくれたし、初心者を教える苦労をここまで指導された先生方の情熱に敬意と感謝の気持ちを込めて観戦記としたい。

（女子オリンピック有望選手選考委員　樫塚正一）

★JOCジュニアオリンピックカップ最優秀選手

男子　萩原範行（愛知選抜・中部中学3年・CP）
女子　森本美奈子（大阪選抜・上町中学3年・CP）

オリンピック有望候補選手

小田健介
一つのチームとしての優勝の夢を果たすことが出来なかったのに、オリンピック有望候補選手に選ばれて、びっくりしています。このような栄誉ある賞をいただけたのも、先生を始め、チームメイトに支えられて選ばれるものだと思っています。これからは、目標を高く持ち、技術・精神ともに向上するよう毎日の練習に励みたいと考えています。そして、郷土北海道函館を誇りとして、これまでにこの大会で賞に選ばれた3人の先輩たちに負けないよう、一生懸命努力することを忘れずに頑張り、日本を代表するオリンピック選手を目指したいと思います。

森本美奈子
大阪選抜チームは、第4回大会の優勝を目指して、苦しい練習をしてきましたが、優勝した時は、本当に涙が出る程嬉しい気持ちでした。嬉しいことはそれだけではなく、最優秀選手とオリンピック有望選手に選ばれ、二重・三重の喜びで大変嬉しく思っています。チームの皆なにとても感謝しています。また全日本チームの選手の人達にも会うことができ、私も将来、あの選手達のような素晴らしい選手になれるように、これからもいろいろな技術を身につけ勉強して行きたいです。

加藤明香
この度の第4回大会で、まさか私がオリンピックの有望候補選手に選ばれるとは思いもせず、代表に選ばれた時は、驚きで一杯でした。今でも夢のようで、こんな感謝は初めてです。私が選ばれたのも、チームの先生監督を始め、チームの仲間が私を支えて下さったお陰だと思います。いつも練習の時からいろいろ指導していただいた監督の先生、仲間の皆さんに本当に感謝しています。これからも、謙虚な気持ちを忘れず、また新たな目標に向かい、そして、私の好きなハンドボールがいつまでも続けられるよう何事にも一生懸命努力し、少しでもうまくなれるようこれからも頑張りたいと思います。本当に有り難うございました。

★オリンピック有望候補選手

男子　小田健介（北海道選抜・凌雲中学3年・CP）
女子　森本美奈子（大阪選抜・上町中学3年・CP）
　　　加藤明香（山形選抜・尾花沢中学3年・CP）

★ベストセブン優秀選手

男子
1、森本直之（山口選抜・通津中学3年・CP）
2、松本拓磨（兵庫選抜・浜の宮中学3年・GK）
3、安藤和樹（愛知選抜・中部中学3年・CP）
4、萩原範行
5、大舘明人
6、中村晋介（福島選抜・郡山第四中学3年・CP）
7、東江哲朗（沖縄選抜・神森中学3年・CP）

女子
1、加藤明春（山形選抜・尾花中学3年・CP）
2、土屋友美
3、倉益好美（山口選抜・岩国中学3年・CP）
4、大場利絵
5、菅野安希子（大阪選抜・第13中学3年・CP）
6、瀧　昌代（大阪選抜・玉出中学3年・GK）
7、棚原美幸（沖縄選抜・浦添中学3年・CP）

【最優秀選手・オリンピック有望候補選手選考委員】
［男子］蒲生晴明（元ナショナル男子監督・日本協会男子強化委員）真田　元（日本中体連ハンドボール部専門委員長）［女子］樫塚正一（ナショナル女子監督・日本協会女子強化委員）佐々木英明（日本中体連ハンドボール部強化委員）［総括］大西武三（日本ハンドボール協会指導普及委員長）伊藤和夫（同普及委員）

総評　個性的な素質ある選手の発掘を……

阪神大震災のショックは残っているが、第4回大会は時期を早めた開催となった。大会も回を重ねるごとに充実し、懇親会の出席者も例年になく多く、歓談も大盛況であった。また、平成9年は、〝なみはや国体〟が堺市のハンドボール会場で開催されるため、堺市行政と大阪ハンドボール協会がタイアップして本大会が開催されていることは何よりも心強い。

本年度第4回大会における大阪府選抜女子チームの初優勝は、待ち通しい念願の栄冠、優勝旗（堺仁徳ライオンズクラブ寄贈）であり、感無量の女子チャンピオン誕生で、心からの祝福を贈りたい。

未来のオリンピック選手育成に夢をかける大阪ハンドボール協会は、過去日本を代表する名選手を数多く生んだ素晴らしい歴史があるだけに意義深いものを感ずる。ま

た、後援の堺市国体準備委員会や教育・行政・協賛企業団体等地元の支援に十分応え得るものであった。また、賛助出演をした堺市立三原台中学校ブラスバンドクラブ顧問が「こんな立派な行進を演奏したのは初めてです。本当に感動しました」と興奮気味のコメントがあり、舞台裏も十分熱が入っていたことを感じた。今回は予選リーグ形式を採用し、一チーム2試合のカードが組まれたが、欲をいえば少しコートの広さに余裕があればよかった。なお、役員、審判団の宿舎が新装完備で他に例をみない格別の配慮があったことに感謝したい。

第4回大会を通じて3点の指摘をしておきたい。

1 出場チームの編成は「選抜」であることが前提であり、要項にも列記してあるが、2チームのみが単独の学校編成であった。今までは発展的に考えて事情を考慮してきた経緯はあるが、第5回大会については基本的な主旨を再度、協議確認する必要があろう。

2 12月開催に変更した理由の一つに3年生の参加出場を希望しているが、今回3年生が1名もメンバーに入っていないチームが3チームあったのは残念。各表彰選手の顔ぶれをみても全員が3年生であることから、また、有望選手発掘の意味からも出場が可能であれば惜しい気がする。また、大会の意向として全国中学校体育大会のリハーサル大会にしない方向で理解を求めたい。

3 男女の大型化を目指すハンドボール界に、男子身長180cm以上が5名、その中に185cm1名、女子170cm以上が3名、その中に180cm1名の長身者が目を引いた。特に福井県選抜女子の180cm谷口選手は群を抜いており、高校進学後もハンドボール活動が可能である一貫した追跡指導を県協会の先生方にお願いしておきたい。また、他の天分・資質を持った選手についても同じコンタクトをお願いしたい。5～10年後にはハッキリとした答えが出るからである。

さて視点をかえて、目前に迫った97年世界男子選手権(熊本県開催)に向け、ハンドボールがもっと楽しい、見て面白い観客の興味を誘うアピールがないとメジャー化は期待しにくい。マスコミのTV商品価値を作り出していかないと中学生の関心を呼ぶことはできない。そのためにはTV放映を茶の間に送り込むこと、新聞記事報道以外には考えられない。ましてや漫画の本に大衆化されるなど夢の話である。

では、中学生のプレーに如何なプレーを盛り込めばもっとスリルと感動を呼ぶ多彩な変化があらわれるだろうか。即ち、ゲームの流れに興奮する場面を工夫しないとTVの絵になる商品ができないし、観戦するファンを魅了することはむつかしい。現実は勝つための日本人的国内用プレーと大型化に対する外人向け用のプレーがその場、その時々の相手によって使い分けられている状態で、国内のすべてのプレーが外人向けの対大型用プレーには徹していない。また、徹しなくても通ずる点が問題である。国際的経験を積んだ大型用プレーのお土産も帰国後何ケ月か経てば国内的プレーに戻ってしまう。今回史上初めて男子ナショナルチームは外人監督になったが、今後国内に於ても外人対策専用イメージのプレーに切り替わっていく指導理念を期待し、全国ファンの要望に応えて欲しい。その意味で、(財)日本中体連ブロック委員諸氏のJOCジュニアオリンピックカップに対する新しい認識と一層の理解は、義務教育機関の中で創造的・独創的な高度な判断が必要であり、新しい発想の転換を待ちたい。

将来はまずアジアの中で勝ち抜ける選手を育成するために、個性的な天分・素質のある選手の発掘と潜在能力を引き出していけるユニークな指導者の養成が課題である。また、5～10年先が正しく展望できる基礎知識と世界的視野の中で、独創的な考え方を生む指導者の育成は課せられた使命であろう。そして、指導者は、常に国際的感覚を目指しながら、アジアの挑戦を突破する底辺に夢を抱き、全日本中学選抜男女の雄姿がアジア制覇を目指す強化策の早期実現に大きな期待をかけて止まない。

最後に、本大会の開催にあたり、格別のご配慮を賜わり、ご尽力頂いた堺市・同教育委員会・堺仁徳ライオンズクラブ・関係諸団体の皆様そして、主管大阪ハンドボール協会に対して深甚の敬意と感謝を申し上げる次第である。(大会顧問　小西博喜)

IHFレフェリー・トレーニングコースを開催

レベルアップに大きな成果を挙げる

●朴講師の五つの注意

97年男子世界大会にそなえ、日本のトップレフェリーのレベルアップの為IHF・AHF／PRC委員のチュンジョー・パク氏（朴・韓国）を講師に迎え、1月28日～30日までの3日間、国士館大学多摩校舎にて31名の受講者を集めて熱心に研修が行われた。公認レフェリーをめざす審判だけに辞書を机に置いて受講する人もいて真剣そのもの。

開会式には大塚審判長から開催の主旨が話され、日本協会より木野常務理事が一層のレベルアップを期待する挨拶があった。

トレーニングコースは初日午前・午後と講義があり、レフェリーの心構え、世界の流れ、アトランタの一部ルール変更、また、97年度からルール変更があるかもしれないという内容の説明が朴氏より話があった。また、Q&A形式もとられ、日頃の疑問も率直に語られた。

2日目、3日目は試合をおこない実際の笛を吹いて朴氏の評価、他の人も問題点をかいてお互いに評価し合った。朴氏はレフェリーの心構えとして、

①エリート審判は自信のある審判をすることを強調。試合のスタートの時から笛の音がちがいすぐウマイかヘタかわかる。

②いつも確固たる信念をもって吹くこと。

③姿勢をよくすること（前かがみになったり、そらしたりしない）。

④常に止まって判定すればよい。

⑤忙しく、バタバタみせてはダメ。

特にこの五点を強調。そして日本人・アジア人は皆が低いので、足の歩幅も小さいし、コチョコチョして大変みていて見苦しく、スマートさに欠ける。したがって、もっとスマートにする必要があり、更に足の幅を広くとる様にするよう何度も注意があった。

そして、日本のレフェリーはオーバーステップの判断が鈍いことの指摘があった。

更に朴氏はレフェリーは次の三角（トライアングル）のことをいつも頭に入れて審判することを忘れないようにするべきことを何度も口すっぱく話された。

朴氏の指導のもと熱心な受講者たち

●何が、何故おこったのか

たとえば、何故2分間の退場があったのか、そのインフォメーション（オフィシャル、ベンチ、観衆にわかることが）が必要。そしてゲーム再開の時はタイムキーパーに合図し、コーチ、プレーヤー、観衆にもわかるよう合図が必要。

判定の段階ではひどい反則の場合をのぞいては、警告、退場、失格、追放の順でやる方がよい。

●国際審判登用への一部ルール改正について

①従来はAコースに合格すれば国際審判になれたが、今後はコンチネンタル（大陸）レフェリーコースを受講し合格すればAHFが認定。その後IHF・PRCを受けたのち合格すればIHF・PRCにまず登録される。そのあと6年以内にエリートレフェリーにならないと大陸レフェリーにおとされる。

②1977年からは公式用語が2人のペア両方ともいずれかの公式用語を喋る必要がある（今までは2人の内1人わかればよかった）。

IHF・レフェリートレーニングコース日程

日	時　間	内　　容
1月28日	9:00 9:30～12:30 12:30～13:55 14:00～17:30	開会式 講　義(Q&A) 昼　食 講　義(Q&A)
1月29日	9:30～12:30 12:30～14:00 14:00～17:30	実技指導と研究課題(判定のQ&A) 昼　食 実技指導と研究課題(判定のQ&A)
1月30日	9:30～12:30 12:30～14:00 14:00～16:00 16:00～17:00	実技指導と研究課題(判定のQ&A) 昼　食 実技指導と研究課題(判定のQ&A) まとめ(Q&A) 閉会式

（受講者）

大塚　文雄　加藤　雅之　斎藤　実　江成　元伸　後藤　登
清水　宣雄　浜田　浩和　小笠原久郎　武智　誠治　松原　誠起
兼田　佳博　井田　一博　北村　善夫　佐藤　睦雄　大沢　由和
仲田　稔　植村　彰　浅野　幹也　神谷　真次　山本　輿道
菅田　信也　建岡　欣也　福島　亮一　原井　進　角　直樹
藤井　俊朗　大熨　嘉彦　家永　昌樹　坪井　雅典　根来　英介
土屋　雅彦　花野　誠一

大きな成果をあげた3日間だった

◎アトランタオリンピックルール一部変更

①タイムアウトの採用

アメリカのTV局からIHFに要求

前年、後半各チーム1回ずつ作戦タイムがとれる（この規則はアトランタオリンピック時のみ採用、しかし1977年から採用されることが高いことを朴氏は示唆した）。

②相手の投げたボールがひざの下にあたった場合はキックボール。

③パッシブプレーについて攻撃意図がみられない場合、コートレフェリーは手を90度の角度で挙げて合図をおこなう。

④手をひろげてサイドシュートなどをカットをしようとするのは危険防止の為反則。

●新しいルールへの検討

1977年からのルール改正、見通しについて97年8月1日から実施される方向で検討されているルールは次の通り。

①一試合12名のメンバーが14名になる。

IHFの公式記録用紙に16名記入する欄が設けられている。2名を消して14名のメンバーで戦うことになる。

②選手不正交代の場合

フリースローはボールを保持している場所からおこなう。

③ゴールインされたあと、ゴールキーパーのスローから始まる。ゴールエリアラインから相手側は3mはなれていること。

ホイッスルはなし。

IHFの総会で検討されPRC委員会のシンポジウムで更に検討されたのち97年8月1日から実施されることになる（あくまで現時点での見通し）。

◎IHFの審判評価法について

IHFの審判評価について7項目

(A)ルールに精通しているか7項目

(B)個人の印象（評価）3項目

(C)全体的な印象（評価）

(A)(B)(C)の3項目で1～4段階の評価。

最高得点は48点、グッド（良い）の評価、ほぼ平均得点が36点になっている。

朴氏によると36点とれば合格とのこと。

常に審判はいろんな人から評価され、厳しい目でみられている。

したがって、ストレスが多くある。他の審判から評価を受け、点数がでて欠点を指摘されても決して頭にきたり、不満に思ったりしないこと。他の人から悪告を与えられたことに関して、有難く思い常に幸せに感ずることがある意味でレフェリーの資質向上にもなるし、人格的にも人間的にも大きく成長することになる。

世界を意識してエリートレフェリーは笛も評価もしてほしいことを朴氏は最後につけ加えられた。

超満員の盛況！日本リーグ地元デビュー戦

社内外の小さな和の積み重ねで成功へ

立山アルミスポーツ推進室　木下晴雄

平成8年1月15日、立山アルミハンドボール部の日本リーグ地元（高岡大会）デビュー戦の日である。

開場30分前、昨日とはうってかわって冷たい雨が降る中、これまでの富山県内のハンドボール会場では見られない光景が…。なんと、入口に50人位の熱烈なファンが、今か今かと列を作って待っているではないか。時間が経過するにつれ人の波が押し寄せ、立山アルミの試合開始前には、会場最上段の通路にまで人があふれるほどの大入り満員である。日本リーグは、本大会よりホーム＆アウェイの本格導入を図り、「ホーム」のファンに愛される、地域と密着したリーグ開催のテーマのもと、積極的なファンの獲得・拡充を打ち出している。しかし、県ハンドボール協会も3年ぶりのリーグ開催、まして地元チームを擁立しての大会は初めてということで開催準備も手探りの状態であった上、準備期間も短い中での〃見切り発車〃で当日を迎えただけに、感無量であった。

本大会が予想以上の盛会に終える事ができた要因については、創部当時にさかのぼる必要がある。企業スポーツに取り組むこと自体初めてである私共にとり、平成6年10月の創部発表から、部の管理運営に至るまで、見よう見まねの状態でのスタートであっただけに、色々な意味で社内のコンセンサスを得る事が不可欠であった。〃ハンドボールに理解を深めてもらうには、社員一人一人に参加意識を持ってもらう事が肝要〃と、ユニフォームのデザイン、マスコットの作画、結成式典の企画運営等、全て社員の手作りで行った。出来栄えはともかく、社員が少しでもチームに触れる事で「自分たちのチーム」と感じることができる心が通ったチーム作りを心掛けてきた。昨年10月には、〃強いチームを作るには「良い選手」「良い指導者」「支援する良い環境」が必要〃と、全社員、地元有志の方々で支援環境作りの場として後援会組織を結成。さらに、12月には、試合の雰囲気を盛り上げようと、社員有志42名による応援団を結成する事ができた。ある社員は、カラオケ大会で獲得した景品であるラジオCMを「是非、試合のPRに！」とプレゼントしてくれるなど、社員全員でハンドボールを育て、自分たちも選手の一つ一つのプレーに感動、感激することによって、ハンドボール競技に対する理解を深めることができた。また、地元テレビ局、新聞社には、創部から現在に至るまで色々な場面でニュースソースとして取り上げて頂いたり、県協会、各市協会の方々にも、各方面で多大なるご支援を賜わった。このように、社内・外を含め、地元の皆様一人一人の小さな和の積み重ねで、〃会場満員〃を達成することができたと、心より感謝している。

しかしながら、本大会の観客の皆さんの半数以上はハンドボール初観戦であったと思われる。それは、社内の関心が高まるもう一方で、「何人で行うスポーツ？」「試合時間は？」といった質問が聞かれた事からも推測できる。まして、ハンドボールの試合を見る機会など、一般には皆無といっても過言ではない。その方々に感動を与え、「次回も観戦したい」という気持ちを持って頂き、その和を今後より大きく広めていくことが、大きな課題である。そのためには、当然ながら素晴らしい試合を行う事が一番であろうが、大会の運営方法も重要なポイントとなる。今回は、エキサイティングなアナウンスにのりスポットライトを浴びて駆け込んでくる選手紹介、地元高校ブラスバンドのフロアードリル演奏等による雰囲気作り、Tシャツの投げ込み、お楽しみ抽選会等による観客サービスといった、誰もが考えつく事を行っただけであるが、大会運営については、イベントを如何に素晴らしくするかではなく、如何にイベントで試合を引き立てるかということを絶えず念頭においておかないと、試合の感動が残る大会にはならないと思う。

セレモニーのマーチングバンド演奏

第2回「スポーツ医学とハンドボール」会議に参加および口演して

順天堂大学浦安病院健康スポーツ診療所　坂本静男

1995年女子世界ハンドボール選手権（ウィーン、ブダペスト）の開催と平行して、ウィーン市郊外にあるCity Club Hotelにて第2回「スポーツ医学とハンドボール」会議が、1995年12月14～17日にかけて開催されました。今回日本ハンドボール協会の推薦にてこの会議に参加し、口演発表も行いましたので、会議の模様を中心に、ウィーン市内観光、女子世界選手権の試合（韓国対オランダ戦）なども含めて、報告致します。

成田を12月12日にルフトハンザ機（LH711）で飛び立ち、フランクフルト経由にて、ウィーンに現地時間同日18時に到着しました。ウィーン市内は雪国で、クリスマス一色でした。非常に朝晩は寒く、新調していったジャンパーが大変重宝しました。

全くの一人旅であり、**2日目**（12月13日）は帰国時の航空券の再確認手続きのために、ウィーン市中心街に路面電車にて出ました。オペラ座周辺と大聖堂を見学し、ホテルへと戻りました。その頃より会議に参加すると思われる人を、ホテル内で見かけるようになりました。

3日目（12月14日）の夕方18時より参加登録手続きが開始され、20時よりホテル内の屋内プールサイドにて、ウェルカムパーティーが数10人の参加者のもとに行われました。シャンペンやワインに、つまみが少々といったパーティーでしたが、ほとんどの参加者が第1回の会議にも参加し、ヨーロッパおよび北アメリカの国からのドクター達であり、和気あいあいとパーティーを楽しんでいたようです。自分は、ポルトガルの男性スポーツドクターとカナダからの2名の女性ドクターの仲間に入れてもらい、片言の英語にて話に興じていました。

4日目（12月15日）は早朝から夕方遅くまで、午前と午後に各々コーヒーブレイクを途中に入れて、一般演題（15分間）および招待講演（25分間）が続きました。全部（12月16日も含め）で45題の演題が報告されましたが、ほとんどの演題が整形外科的なものであり、自分の発表したような（The significance of continuous medical checks to Japanese national handball players ―日本代表ハンドボール選手に対する連続的メディカルチェックの重要性）内科的なもの、あるいは婦人科的なものはわずかでした。女子ハンドボール選手におけるトレーニングによる生殖機能障害に関する演題や、ハンドボール選手における傷害の疫学的検討といった演題などは、非常に興味深い内容でした。会議終了後、ViennaNeustadt のハンドボール会場まで希望者のみタクシーで出かけ、準決勝試合（韓国対オランダ戦）を観戦しました。観客の熱狂ぶりは、日本でのプロ野球やJリーグの試合での熱狂ぶりに類似しており、ヨーロッパでのハンドボールの人気の高さを再確認させられました。この時にドーピング・コントロールの様子を見学できたらと考えていましたが、IDカードもなく、日本チームにも出会えず、かなわぬ夢となりました。

5日目（12月16日）も早朝から夕方まで、講演および一般演題の発表が続きました。自分の発表は、前述しました内容で、この日に行いました。たどたどしい英語の発表でありましたが何とか通じたようで、いくつかの質問を受ける羽目になりました。これまたお粗末な英語ながら、何とか返事を行うこともできました。午後8時からはコングレスディナーが開かれ、ビールやワインなどのアルコールはもちろんのこと、おいしい料理がたくさん並べられ、すばらしいパーティーでした。その席上にて、優秀な講演に対して表彰がまわれました。どういう訳か自分も表彰されることになり、最初はまさかと目をパチクリさせていましたが、本当であると分かったときには、うれしさのあまり国際ハンドボール協会医事委員会委員長さんに抱きついていました（勘違いしないように、委員長は男性です）。

6日目（12月17日）はワークショップの開催される日でしたが、その日は自分は雲の上の人となり、日本（成田）へと帰国しました（12月18日）。不安な1人旅でしたが、振り返ってみますと楽しく、実り多い旅行でした。

なお、1997年5月に日本（熊本市）で男子世界選手権が開催されますが、それに平行して第3回「スポーツ医学とハンドボール」会議も開かれる予定になっています。

スーパーレフェリーがやってくる
第20回日本リーグに登場

国際審判員　後藤　登

3月28日から30日まで、東京体育館で行われる、第20回日本ハンドボールリーグプレーオフの笛を吹くために、スーパーレフェリーが、ノルウェーからやってくる。

昨年5月、アイスランドで行われた、男子世界選手権の決勝戦を吹いた、スペイン・オラフ・オイ氏(39歳)とビヨルン・ホグスネス氏(39歳)のペアである。

彼等は、アイスランドでのフランスとクロアチアの決勝戦を、完璧に、かつ、冷静な試合運びで見事にまとめ、審判関係者ばかりではなく、プレイヤーやコーチからも、高い評価を得た。

この39歳のペアは、国際ハンドボール連盟の国際審判員のトップレフェリーの座を、最も早く手にしたレフェリーペアと言われている。彼等は、1986年からペアを組み、3年後の1989年に、IHFの国際レフェリーリストに載り、その1年後には、韓国での女子の世界選手権のレフェリーに、名を連ねている。

私は、1992年のバルセロナオリンピックで、彼等と過ごしたが、ヨハンセン・クシェルクイスト(スウェーデン)ペア、トーマス・トーマス(ドイツ)ペアや、ガレゴ・ラマス(スペイン)ペア等の、トップレフェリーの中では、彼等は、若いデビューしたてのレフェリーという感じで、まだ目立たぬ存在であった。その彼等が、超特急列車に乗り、あっと言う間に、レイキャビックの世界選手権の決勝戦を吹き、トップレフェリーの座に登りつめた。

オイは、ノルウェーのジュニアチームでプレーをした後、1部のクラブ「RAPP」でプレーをし、ホグスネスは、2部のチームで活躍していた。オイとホグスネスの二人は、彼等のプレイヤーとしての経験が、その後の審判活動に、大いに役立っていると話している。

コミュニケーションの重要性

彼等は、プレイヤー、トレーナー、タイムキーパーと、レフェリーとの間のコミュニケーションが、試合を審判するにあたり、いかに重要かを知っている。試合の始まる前も、試合の最中も、この事を忘れないように努めている。

そうすれば試合がスムーズに運び、プレイヤーやコーチに対し、レフェリーが過激な笛を吹く必要がなくなる。今でも彼等は、審判活動以外に、地元のハンドボールのディレクターとして、地域スポーツに関わっている。彼等のスポーツマンとしてのキャリアが、トップハンドボールプレイヤーの心を読む、幅広いレフェリングを作り出しているのであろう。

そんな彼等に対し、日本のトッププレイヤー達は、どのようなプレイをぶつけてくれるのであろうか。

数年前の、大阪で行われた第34回の実業団選手権に、当時のトップレフェリーであったヨハンセン・クシェルクイスト(スウェーデン)ペアを、招待したことがあった。その時のレフェリーに、「日本のハンドボールプレイヤーは、非常に紳士的で行儀がいい」と言われるほど、選手達はトップレフェリーを意識しすぎ、あまりにもプレイがおとなしく、クリーンであった。

3月28日からの日本リーグプレイオフで、日本リーグプレイヤー達に、今、世界のトップレフェリーと言われている、オイとホグスネスの二人に、日本のトッププレイを思いきりぶつけ、彼等のベストコントロールの中で、ハンドボールのファンをわかすプレイを、是非共、たっぷりと見せてくれることを期待する。

審判委員会インフォメーション

平成８年度むけの委員会からの通達

前回までのルールテストの結果は如何でしたか？

あなたがゲームをする時にルールを知っているのと、知らないでいるのとは大違い。あなたのチームでもときどきルールのテストをやらせてはいかがでしょう。

今回から、平成８年度シーズンにむけ審判委員会からいくつかの通達を出しますが、次のことをお守り下さい。

１．腰痛者のコルセット使用について

現在、腰痛者がユニフォームの上からコルセットをしているのを見かけます。コルセットの使用は差し支えありませんが、平成８年からは、ユニフォームの中に着用するようにして下さい。

理由は、ユニフォームの上に着用すると、コルセットの隙間に指などが入り、非常に危険である。また、チームは同色のユニフォームを着用しなければならないが、コルセットの部分の色が違うので、このルールに反する。

２．鋼鉄製入り膝サポーターの使用について

膝サポーターの中に膝の両脇を保護するために鋼鉄製の保護具のついたサポーターを使用している者がいます。

ゲーム中この鋼鉄製の部分にぶつかりますと、かなりのダメージを受けますので、次のようにして許可を受け使用して下さい。

鋼鉄製の部分にスポンジ等でカバーをしてぶつかってもダメージを受けないようにしてから、全国大会等で代表者会議のある大会は、その終了後審判長から許可を受け使用すること。また、代表者会議がない大会では、ゲーム前に危険がないかどうか、審判長または担当審判員の許可を受けてから使用するようにして下さい。

自主的に考える力、努力する力を引き出したい。

東邦大学付属東邦高校

河村英明

指導の行き過ぎは禁物

　将来、医、薬、理工に進学する生徒が大半の中で指導を始めて26年。東邦生という学力の高い生徒、練習時間が多くとれない、その中でのチーム作りを毎年暗中模索してきました。生徒たちは勉強と部活動の両立。一つでも目標の高い大学への進学。全国大会にも出場したいと大変欲ばりである。「天は二物を与えず」といわれますが何事にも一生懸命努力することによって可能になることを生徒達に教えられています。それだけに指導者がぼやぼやできない、生徒、親の期待を裏切れないと思い部活動の在り方、チームづくり等本校なりに考え創意工夫を行っている毎日です。

　また、スカウティングはまったくできず付属中学校の運動能力の高い生徒を情熱をもって説得し入部してもらうことしかできません。ここ10年は中学校に柴田雄二先生を迎え少しずつ男子が軌道に乗って来ましたが将来の進路のために断念する生徒が多く初心者の指導に懸命です。そんな環境下でチームづくりをしていますが生徒の能力は無限です。

　生徒の個人個人の力を引き出すように指導すればいくらでも成長していきます。ただし指導に行き過ぎは禁物です。当初は全国に出場したいという気持ちからあれもこれも教えなければ勝てないと思い、練習時間が少ないにもかかわらず教え過ぎました。そのためか選択肢が多くなったがために、つぶれてしまい、私が焦れば焦るほど生徒たちも焦り始め結局名にもできずに終わり、決勝で大事な一戦を落としてしまったことが今でも一番の心残りです。

　短時間で能率の上がる練習がないものかと一番悩みました。プレーを体にしみ込ませる練習もあると思いますが、生徒の事情、チーム事情等を理解し、そのうえでどうすれば初心者軍団を2年間でチームとしてある程度の水準に引き上げることができるかを考えました。能率の上がる練習はもちろんのこと、その前にチームづくりにおいて最も大切なものがあるはずだと気づきました。大いに悩んだ時期であり、いろいろな講習会や公認コーチ研修会に参加、筑波大学の大西先生、恩師の元大分東高校藤原先生にご指導を仰ぎ感銘し勉強不足を感じました。おかげで私なりに少しずつ東邦高校としてのチームづくりができあがるようになって来ました。そしてある程度のマニュアルが確立できたように感じられ少しずつ成果が見られ活躍できるようになってきました。

アイデンティティの確立

　たとえばシュート練習にしてもパスワークの中でのシュート練習。そのパスワークも東邦としての攻撃方法の中でパスワークから（ユニット練習も含め）シュート、フェイントの練習からのシュート、実戦用に工夫をしてきました。今もその姿勢は変わりません。また、なぜウエイトトレーニング、メンタルトレーニングが必要なのか、基礎練習が練習の半分を占めるのか等、生徒たちに理論の説明、興味づけを行ってきました。それは自主的に努力する力が育ってくるものと信じ「勝つために先生も勉強するよ、君らもハンドボールのIQを上げ、体力の向上を願う。」と口癖のように言ってきました。そうすることによってお互いにチームメイトが誘い合い自然に朝、昼自主練を行うようになってくれました。こうなればしめたものです。チームに和ができ、ほんの少しのアドバイスでゲームの分析等をチーム内で話し合うようになり、個人個人が自分の目標を宣言、責任感が生まれ、一人一人の力が蓄積され、一丸のチームとなり、戦術となりゲームでは1点1点の積み重ねとなり男女とも全国大会に出場することができました。

　チームづくりの和とともにアイデンティティの確立につながったように思いました。生徒たちの能力（考える力）を生かし、努力する力を大事に見守り、そして生徒の力を借りることによってチームづくりができる気がします。

　生徒とともに大きな夢（男女アベックインターハイ）を持ち、ともに成長しさらに工夫を重ね前進していきたいと思っています。

フリースロー

ありがとう、神奈川の先生

企画・広報委員　早川文司

阪神大震災から一年が過ぎた。１月17日、仮設住宅で、学校で、自宅跡で被災者が肉親や知人の冥福を祈る姿をテレビが伝えていた。私も昨年暮れ、女子の全日本総合選手権が開かれたのを機に神戸を訪ねたが、随所に大きなツメ跡が残っているのを見て、改めて胸が締めつけられる思いがした。

そうした暗い気持ちを吹き飛ばしてくれたのが心優しい〝ほのぼのプレゼント〟。紹介してくれた兵庫県協会の大原康昇理事長の感謝に満ちた表情が今でも思い起こされる。

暖かいハートの主役は、全日本総合選手権に出場した神奈川教員Gabbianの面々。実業団と違って経済的にも恵まれないチーム、車に相乗りして神戸入りしたが、途中、車窓から見えた大震災の惨状に心が痛んだ。

「こんなひどいとは‥」

「私たちに何かできることはないかしら」

だれからともなく声が上がり、カンパすることになった。

試合は１回戦でイズミに敗れたが帰り際、三辻訓監督が大原理事長にそっと差し出した。「チームみんなの気持ちです。苦しい中、ハンドボールを続けている人たちのために少しでもお役に立てば」―。５万円が包まれていた。

「本当に感激しました。うれしくて。旅費を浮かせるために車に分乗してまで出場してくれた彼女たちがこうまでしてくれるなんて‥」

大原理事長は優しい心づかいが言葉にならないほどだったと打ち明けてくれました。

愛の灯はＪＯＣジュニアオリンピックカップに出場する兵庫選抜の派遣費用に当てた。「神奈川県の先生の貴重なカンパ」という言葉が添えられたことはもちろんである。

戦いには敗れたものの、それ以上に大きな大きな感激と希望と勇気を被災地の球友に残した神奈川県教員。ＪＯＣカップの子供達も永遠に心に留めているに違いない。

連載10

ミニハンドボール

ポール・アーカード／エリック・スコーガード共著　小西　博喜監修

6　ミニハンドボールのルール

（ルール2）ボール

2：1　ボールは球状で、ゴムの空気袋を持ち、外側は皮か合成素材で被われている。色は1色のみで、固くふくらませ過ぎないようにする。

2：2　プレイを始めるときのボールの周囲は、47cmより小さくてはいけない。また、49cmより大きくないこと。重さは250g以下にならず、300g以上にならないこと。

外周は小さく47～49cmで、重さが250～3000g。

ボールの長所：小さいプレイヤーがよく握ることができ、投げたりつかんだりというテクニックをより早く習得することができる。

（ルール3）プレイヤー

3：1　各チームは最高8人(7人のコートプレイヤーと1人のゴールキーパー）からなり、その中の5人だけが(4人のプレイヤーと1人のゴールキーパー）同時にコートに入ることができる。残りの3人のプレイヤーは補欠である。1つのチームは男子と女子の混合になっていてもよい。

3：2　補欠プレイヤーは、ゲームの間中、いつでも入りたいときに入ることができる。交代されるプレイヤーは、交代するプレイヤーがコートに入るまでコートに残っている。

（フリースロー）

3：3　プレイヤーは交代のとき、入場口の付近で素早くコートに入り、また、コートから出る。（1：7参照）

（フリースロー）

3：4　1つのチームのコートプレイヤーは、同じような服装をする。ゴールキーパーは両チームのコートプレイヤーからはっきり見分けがつく色のユニホームを着る。

ミニハンドボールのチームは、最大8人のプレイヤーで編成する。男子も女子も同じチームでプレイできる。同時に、コートには1人のゴールキーパーと、4人のコートプレイヤーが入る。残りの3人は補欠。どちらのチームにも常に少なくとも1人は補欠がいなくてはならない。ゲームのときに、すべてのプレイヤーが交代できるように。ゴールキーパーはゲームの間中、ずっとコートにいてもよい。

（ルール4）ゲームの時間

4：1　ゲームの時間は7分×2である。

4：2　スローオフはセンターラインから始める。（1：6参照）両チーム全員のプレイヤーは、同時に自分のチームのハーフコートの中にいなくてはならない。そのとき、スローオフをするプレイヤーから1・5mのところには、相手のプレイヤーは誰もいてはならない。

4：3　スローオフから直接のゴールは、相手に対して得点できない。

（ゴールスロー）

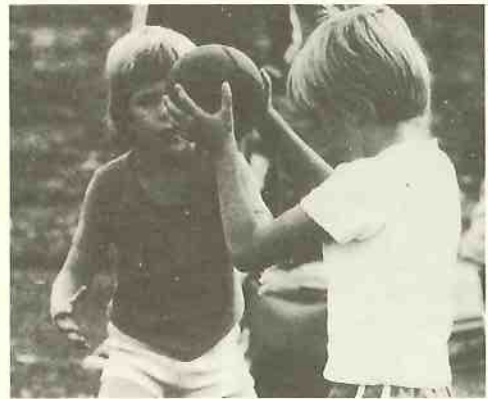
4：4　ハーフタイムの後、ハーフコートを交替し、スローを始めたプレイヤーと反対のチームのプレイヤーがスローオフをする。

（ルール5）ボールを投げるとき、次のことが許されている

5：1　投げる、叩いてバウンドさせる、握る、手、腕、頭、身体、太ももや膝を使ってどんな方法でもよいから止めたり、つかんだりすること。

5：2　それによって、プレイヤーが直ちに利点があるとき、または、わざとプレイヤーをゆっくりさせようと思うときは、3秒間までボールをつかんだり、床につけたりしてもよい。

5：3　それによって、プレイヤーに直ちに利点があるときや、有利な場所へ行くためには、ボールを持って3歩まで歩いてよい。

5：4　(a) ボールをドリブルすること、すなわち、一度床にボールを

ついてから再び片手、または、両手でキャッチすること。

(b) 片手でドリブルすること、すなわち、片手で床にボールを繰り返しバウンドさせる、または、床にそって片手で繰り返しボールを押しつけながら転がし、その後、片手もしくは両手で床に対してボールをつかむ。ボールが別のプレイヤー、ゴールポスト、クロスバーに当たった後、そのボールを床にバウンドさせたり、再びつかんだりすること。ボールが床にバウンドしたり、転がったりしている間は何歩歩いてもよい。

5：5　ボールを片手から片手に持ち替えること。

次のことは禁止される。

5：6　ボールが床や他のプレイヤー、また、ボールポストやクロスバーに当たらない間に、ボールに1回以上触れること。（フリースロー）ファンブル（つかみ損なうこと）はペナルティーにはならない。

5：7　ボールが故意に、プレイヤーに当てられたとき以外は、膝以下の場所や足でボールに触れてはいけない。（フリースロー）プレイヤーが、下腿や足でボールに触れても、自分自身や自分のチームに利益がなければ、ペナルティーにはならない。

5：8　床に転がっていたり、止まっているボールに跳び込んではいけない。（フリースロー）ただし、自分のゴールエリア内で、ゴールキーパーは自由に動いてもよい。

5：9　ボールがレフェリーに触れても、試合は中断されない。

ボールプレイは、ハンドボールと同様に行う。

3秒ルールや3歩ルールは、プレイヤーがそれをすることにより直ちに利点があるときのみ厳しくチェックすることにする。

（ルール6）相手のチームへの接触

次のことは許されている。

6：1　ボールをつかもうとするときに、両手、両腕を使うこと。

6：2　どんな方向でも、開いた手で、相手からのボールをキャッチすること。（7：2の場合を除く）

6：3　ボールを持っていないときでも身体を使って相手を妨害すること。

6：4　最初ボールを持って、スローするプレイヤーに対して、（フリースロー、ペナルティースローなど（6：8、6：10参照）相手がボールを取ること。

6：5　片手、または、両手を使ってボールを奪い取ったり、相手の手からのボールを叩くこと。（フリースロー、ペナルティースローなど（6：8、6：10参照））

6：7　腕や手や足を使って妨害すること。（フリースロー、ペナルティースローなど（6：8、6：10参照））

6：8　相手を抱えること、片手、または、両手で相手を妨害したり、叩いたり、押したりすること。相手の方へ走り込むこと、跳び込んでいくこと、相手の足をすくうこと、相手の前へ飛び出すこと、または、どんなやり方にせよ、相手を危険な目にあわせること。（フリースロー、ペナルティースローなど）

6：9　相手をゴールエリアに押し込むこと。（フリースロー、ペナルティー

スローなど(6：8、6：10参照)

6：10 故意と認められるルール違反、攻撃側(6：4〜9、6：8参照)もしくは、コートのどこでオフェンスが反則されるに関わらず、明らかにゴールに得点するチャンスに起こったルール違反(6：4、5、6、7、8、9)は、ペナルティースローの罰則を与えなければならない。

ミニハンドボールにおいては、どんな形にせよ身体的な接触は絶対的に最小限におさえることが明白である。同様に、相手からボールを奪おうとするときに、プレイヤー同志が個人的にいくらかでも接触を避けることは不可能である。

2人の相手が個人的に接触が起こったとき、誰に責任があるのか、その接触が故意によるものか、そうでないのかを決めるのはレフェリーである。コートのどこにおいても、故意と認められる違反や、明らかに得点するチャンスに相手チームから起こった違反は、必ずいつもペナルティースローの罰則を与えるべきである。ペナルティースローは攻撃側の反則されたプレイヤーが直接行わなくてはならない。

(ルール7) ゴールエリアについて

7：1 ゴールエリアには、ゴールキーパーだけが入ってよい。ゴールエリア(ゴールエリアラインも含む)は、コートプレイヤーの身体のどこかの部分が触れた場合、侵入されたとみなされる。ゴールエリアに侵入した場合のペナルティーは、次の様な場合である。

(a)ボールを持っているコートプレイヤーが、エリアに入ったときは、そのプレイヤーに対し、フリースローが与えられる。

(b)ボールを持っていないコートプレイヤーがエリアエリアに入ることによって有利になった場合は、そのプレイヤーに対し、フリスローが与えられる。

(c)ディフェンス側のコートプレイヤーが、明らかにディフェンスの目的で、自分のチームのゴールエリアに入ったときは、相手に対し、ペナルティースローが与えられる。

7：2 ゴールエリア内では、ボールはゴールキーパーに属すると考えられる。試合中にボールがゴールエリアに入ったときは、ゴールキーパーはエリア外にボールを再び投げる。(キーパースロー)(7：3のb、cの場合を除く)

7：3 プレイヤーが、ボールを故意に自分のゴールエリアに入れたときは、ペナルティーは次の様に与えられる。

(a)ボールがゴールに入ったときはは得点とする。

(b)ゴールキーパーがボールに触れ、ボールがゴールに入らなかったときは、ペナルティースロー。

(c)ゴールエリアのゴール以外の部分に入ったときや、ゴール外でゴールラインを横切ったときは、フリスロー。

(d)ボールがゴールキーパーに触れず、また、コートの外にも出ず、ゴールエリアから再び出た場合は、プレイを続ける。

(ルール8) ゴールキーパー

8：1 ゴールキーパーには以下の様なことが許される。

(a)ゴールエリア内で

(1)ディフェンスの目的で、身体のあらゆる部分を使ってボールに触れること。

(2)ボールを持ってどんな動きをしてもよい。

ただし、プレイを遅らせてはいけない。(つまり、プレイ時間を浪費したりすること)

(b)ゴールエリアを離れて

(1)ボールを持たずにコートでプレイに加わること。

このとき、ゴールキーパーもコートプレイヤーとしてルールの対象となる。

(2)ボールを持ってディフェンスの目的で、ボールをコントロールすること。

8：2 ゴールキーパーは、以下の様なことは禁止されている。

(a)どんな防御的なプレイや行為でも、相手のプレイヤーに危害を加えてはいけない。(フリスロー、ペナルティースロー＝6：8、6：10参照)

(b)ボールをコントロールしている状態のまま、ゴールエリアから出ること。(8：1(b)、2参照)(フリスロー)

(c)ゴールスロー(12：2)やスローアウト(7：2)の後、ゴルエリアの外のコートで、(1：1)他のプレイヤーや、相手チームのゴールポストやクロスバーに触れる前に、再びボールに触れること。(フリスロー)

(d)自分のゴールエリア内にいるときに、ゴールエリアラインよりも外のコートに転がっているボールに触れること。(フリスロー)

(e)ゴールエリアラインよりも外のコートに転がっているボールを動かして、自分のゴールエリアに入れること。(ペナルティースロー)

(f)ボールをコントロールしながら、コートからゴールエリアに戻ってくること。

8：3 プレイ中に、コートプレイヤーがゴールキーパーと交代するときは、レフェリーに知らせなければならない。(ペナルティースロー)。そのコートプレイヤーは、自分のチームのカラーを交代する前に替えなければならない。

交代は交代のための出入口で行う。

[ルール9] 得点について

9：1 ゴールが得点されるのは、ボール全体がゴールポストの間とクロスバーの下の相手のゴールラインを越え、しかも、得点するプレイヤーとそのチームの他のプレイヤーが、防御側のプレイヤーが、ルール違反をしているのにも関わらず、ボールがゴールに入った場合にはゴールは得点される。プレイ中に、プレイヤーが自分のチームのゴールに得点した場合、そのゴールは、いつも相手チームの得点となる。ゴールキーパーがスローアウトしているときに、ボールを持って、自分のゴールラインを越えてしまったときは、そのゴールは相手チームの得点となる。プレイ中にゴールキーパーが、ボールをすべらせたり、落としたりしてボール全体がゴールポストの間で、クロスバーの下のゴールラインを越えたときには、そのゴールは相手チームの得点となる。(ゴールスローを除く)

9：2 ゴールが得点された後、ゲームはコート中央からのスローオフで再開される。(4：2)

多く得点したチームが勝ちである。

両チームが同じ得点の場合や、どちらのチームも得点できなかったときには、そのゲームは引き分けである。

フリースローから、直接ゴールにシュートする事はシュートすることは許されている。ペナルティースローでは、ボールは直接ゴールをねらわなくてはならない。

フリースローラインが明示されていないとき、フリースローラインが描かれていたであろう地点よりも外側からフリースローを行う。

指導者の条件

勝っても勝っても反省できるチームへ

中京大学中京高校監督　横井保信

勝ちだ、勝ちたいという精神的に圧迫されて、ゲームをするより練習と努力で負けない人間づくりが必要です。試合はフェアーに行われ、同じ条件で行うものだから、すこしの時間でも大切にして、自分たちのペースづくりに努めることが肝心です。

家庭の生活で、自分のことは自分でする工夫をして、毎日ベストコンディションを築くことができることです。人をたよって甘えたり、やらなければいけないことをせずに生活しても強い人になれる訳がありません。

勝とうと思わず、自分に克つことから始めないと、試合であがってしまったりしてペースをつかめません。一日一歩の前進でも、地道に努力すれば必ず大きな力になります。耐えて、自己を磨き、他人に敬意をもてる様になったときは、中京のハンドボールは負けなくなります。

中京のハンドボールは、コンビが身上のチームで他に劣ることはありません。多くの時間をそこにかけてやって来たはずです。プライドやおごりが生じないよう、一から出なおしてみましょう。

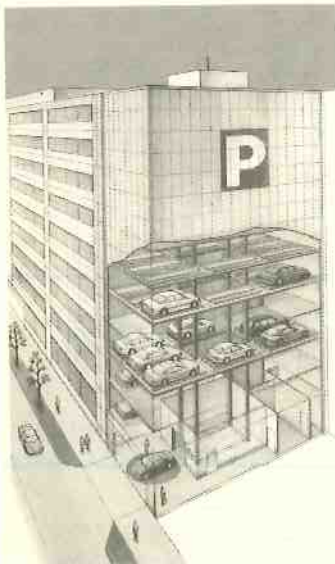
城西、桜台、それに愛知一も苦しさはあるものです。追われる苦しさも大変なもの、中京に敗れた多くのチームもあり、犬山南などは中京に勝つ為またやって来ますし、県大会に出られなかった名南工やその他のチームも目標を決めて望んでいますから、本当に強くなるということは大変なことで、平常心を失わず、普通の人間ですが、〝どこか根性が違います〟。勝っても勝っても反省できるチームこそ全国優勝があると思います。

その意味から上記のスカウティングは大切なことで、相手を知り己を知ってこそ実力が出せると考えます。

勝って兜の緒をしめよ！が人間を向上させ追撃を許さない社会人として、りっぱにやっていける人物になることだと考えます。

負けたくないのはみんな同じ、心を一つにする為には、人に誠を持ち、親に孝行できることから出発しましょう。

三菱重工

まさに高効率駐車

- 前面空地不要。間口7.8m×奥行17.5mの土地をフル活用
- エレベータをとり囲む7台分の駐車スペース（2層より上）
- エレベータで昇降、パズル方式で駐車。入出庫は同時進行
- 昇降120m/分、水平搬送60m/分の高速で素早い入出庫
- 低圧受電で電気料金が割安。電気取扱主任技術者が不要
- 1人で、エレベータ方式3基分に相当する管理ができる
- CO_2 ボンベ室・電気室など、必要設備をすべて塔内に収納

エレベータ十パズル方式（特許申請中）

三菱グリッドパーク

三菱重工業株式会社
本　社　パーキングシステム部　東京都千代田区丸の内2-5-1 〒100 ☎(03)3212-9157~61
中国支社　鉄　構　二　課　広島市中区大手町2丁目11-10 〒730 ☎(082)248-5185
(NHK広島放送センタービル)

●指導委員会

全日本総合選手権で個人記録集計実施

各選手の活躍状況を データーから明確化ー

12月14日から17日まで行われた全日本総合選手権において、本委員会は東京都協会の協力のもと、パソコンを活用して記録の集計を実施した。夏の西日本学生選手権での実績をもとに、ゲーム終了後短時間でのデータ集計を試みた。試合後の得点や印象だけでなく、各選手の活躍状況をデータの上からも、かなり明らかにできたのではないかと思う。

大会初日から、試合のデータを可能な限り採取し、各試合毎にランニングスコア、チーム、個人のポジション別シュート／得点一覧表を作成、出力した。東京都協会からの要請で、2日目からはこれらをプレス向けに提供し好評を得た。最終日には、準決勝、決勝に残ったチームの大会中の集計表を作成し、さらに決勝戦を前に個人のランキング表を作成しておきTV放映の解説にあたった野田氏に参考資料として提供した。残念ながら、表彰式では、時間の関係で個人の成績の発表まではいたらなかったが、ここにその結果を集約しておきたい。今大会の特徴として、決勝戦こそ昨年と同様のカードではあったが、1回戦から波乱が続き、日本リーグでは当然上位に顔を出すべき選手の多くが、ランキングの上位から姿を消している。

これも一発勝負のトーナメント方式の厳しさなのだろうが、なかでも学生代表の名城大学の各選手の頑張りは特筆ものだろう。

戦略・戦術の向上へ

課題として、毎回指摘されているが、入力要員の養成や機器の設定・準備、データ採取後の処理の簡素化、出力データのスムーズな配布などがあげられる。今後様々な大会でこのようなシステムの導入が検討され、実際にデータを積み重ねていくことができるようになるのではないだろうか。

そして、より戦略・戦術的に深みのある試合展開がなされ、DFやオフェンスシステムの研究や指導に役立てられるようになることを期待したい。

なお、チーム・個人のポジション別のデータなど必要なものがあれば、日本協会の指導委員会、またはパソコン通信Nifty-serveのハンドボールフォーラム(Go fvball15番会議室)までご連絡ください。

また、今回データ入力にご協力いただいた大崎電気の渡辺、菅田の両氏、駒沢大学・筑波大学の学生諸君に心から感謝いたします。

[得点ランキング]

①趙　範衍　42（中村）
②末岡政宏　27（大同）
③林　珍錫　24（大同）
④魚住和彦　19（大崎）
⑤八尾泰寛　18（中村）
⑥土屋幸司　17（大崎）
⑥森本彰宏　17（名城大）
⑧後藤康之　16（大同）
⑨冨本栄次　15（大同）
⑩堀田（湧永）、藤井（大同）、橋田（名城大）、柴田（大同）、木浪（中村）

最高シュート率＊
堀田敬章　75.0％（湧永）

最高シュート阻止率＊＊
井上耕一　53.6％（中村）

最多7Mシュート阻止率
多田恵久　3（湧永）

最多ロング得点
趙　範衍　18（中村）

最多ポスト得点
藤井孝志　11（大同）

最多サイド得点
八尾泰寛　14（中村）

最多カットイン得点
末岡政宏　8（大同）

最多速攻得点
土屋幸司　9（大崎）

＊1得点ランキングのベスト10以上の選手対象
＊＊被シュート100本以上のGK対象

◆　◆　◆

ドイツ研修報告④

順天堂大学ハンドボール部監督　東根明人

チーム戦略と個人・グループの戦術が勝敗の分岐点

VfB Leipzigでは、世界選手権に出場していたM. Schanze（GK）、C. Ciszewski（CP）が帰ってきて、久しぶりに全員揃ったトレーニングとなりました。両選手とも、付設の診療所でメディカルチェックを受けてからの合流となりました。VfB Leipzigには、診療所の他、理学療法士、マッサージ士が常駐している施設もあり、選手のヘルスケアを担当しています。当クラブでは、下は10才から上はBundesligaまでの女子10チームと男子5チームによって構成されており、その他サッカー、体操、バレーボール、レスリングといった競技が行われています。従って、全種目の総員はかなりの人数になってきます。ただし、ヘルスケアに関しては、DDR時代と比較するとかなり縮小されたそうです。また、有望な人材が西側にかなり流出していることも悩みの種だそうです。そしてなんといっても資金（スポンサー）確保が、最優先課題であるといいます。今やハンドボール界は、TVや広告業界と密接な関係にあり、選手補強をはじめかなりの金額が動いています。

ナショナルチームも、スポンサー名入りのユニフォーム等を着ることが常識になっています（ちなみに今年度は、大手ビール会社がスポンサー）。VfB Leipzigの場合は、銀行やスポーツメーカーをはじめとする数社が資金提供をしています。

さて、男子のSC Magdeburg（SCM）の監督L. Doeringが成績不振を理由に、解任寸前までいったのですが、今のところはその話は無くなったようです。彼は、1993年まで女子ナショナルチーム監督をしており、世界選手権優勝の実績を持っています。加えてSCMは、DDR地域における唯一のブンデスリガ1部チームということもあり、相当期待されているのです。とても気さくな人柄で、ユーモアもあり気楽に話せる楽しい人でもあり、私が何か要望したり、質問があったりすると丁寧に応対してくれます。そんな彼の解任（?）という新聞記事が掲載されたときは、少々不安になりましたが、立ち消えになった様子なので一安心です。チームの方も苦手としていたアウェーでのゲームをものにし、開幕以来初の勝率5割とし、これから貯金を増やそうという状況です。SCMには、3名のナショナルプレーヤーとルーマニアのエースR. Licuもおり、もっと上位にいてもおかしくないのですが、それだけ各チームの戦力等が均衡しているという見方もできるでしょう。こういった状況下においては特に、チーム内における役割分担、意思統一そして強固な意志といったものが、徹底されているかどうかが勝敗の分かれ目になって来るといいます。

スポーツと科学の分岐点

ドイツに来て最も感じることは、スポーツと科学の結びつきです。即ち、ハンドボールを構成する様々な要因が分析され、公表されていると同時に、その方法論はマニュアル化され、日々改良が加えられています。そして人間のやることなので、そこには〝誤差〟が生じるということも、計算されています。その結果、上述のように試合における技術・体力といったものは、かなり一般化されてきています。それでは何が勝敗の分岐点になるかというと、チーム戦略であり、個人そしてグループ戦術といえるのではないでしょうか。換言するならば、チームコンセプト、判断力そしてこれらの基盤となるコンセントレーションが重要となってくるのではないかと考えます。

さて、研修の3分の1が過ぎ、久しぶりに日本人と会う機会がありました。ここLeipzigにも少数ですが居住しています。オペラ歌手、ピアニスト、バレリーナ、医師、武道家そして学生と、様々な分野の人たちが活躍しています。同じ日本人として、それぞれのドイツ批評や仕事の話をしたりと、思い思い会話を楽しみました。日常生活のことやドイツ事情など、知らなかったこともかなりあり、とても貴重な機会でした。そして、異なる分野の人たちの生き方を見聞きすることは、私にとって大変興味深く、新鮮に映りました。またなんといっても、日本人の環境への対応能力の高さや、逞しさを再確認しました。私たちが普段考えているよりも、日本人ははるかに食生活や習慣などがインターナショナルになっていると思います。

IHFニュース

(1)アトランタオリンピック組み合わせ決まる

アトランタオリンピックの組み合わせが、1月14日スウェーデン・ストックホルムに於て、IHFCOC委員長、アトランタオリンピック組織委員会（ACOG)、米国協会会長他IHF数名の代表で行われた。（男子12チーム、女子8チーム)

■組分け

(男子)

［A組］

1　フランス
2　スウェーデン
3　ロシア
4　スイス
5　クウェート
6　アメリカ

［B組］

1　クロアチア
2　ドイツ
3　エジプト
4　(ヨーロッパ代表)
5　アルジェリア
6　キューバ

(女子)

［A組］

1　韓国
2　デンマーク
3　ドイツ
4　アンゴラ

［B組］

1　ハンガリー
2　ノルウェー
3　中国
4　アメリカ

（なおヨーロッパ代表は5月末のヨーロッパ選手権で決まることになっている）

大会は7月24日～8月4日の日程で行われる。7月24日～8月3日で全試合観客8千席。場所はジョージアワールド世界会議センター。男子決勝は8月4日、3万5千人収容のジョージアドームにて行われる。

決勝チケットはすでに2万1千枚売れている。また、その他は3試合を例外としてすべての試合は完売。

(2)アトランタのレフェリー指名される

IHF・PRCはデンマーク、スペイン、ドイツ、ノルウェーの4ペアーの指名を行った。あと8ペアーは2月トルコでのレフェリーコースの後指名される

(3)代表的レフェリーの登録

IHF・PRCにより95／96年シーズンの代表的23ペアーのレフェリーが決定された。

世界大会、オリンピックの審判はこの中から行われる。なお残念ながら日本からは入っていない。アジアからはクウェートからの1ペアのみとなっている。

AUT
Vorderleitner/Wille
DEN
Elberond/Lovqvist
FRA
Garcia/Lubker
HUN
Klucsco/Lekrinszki
ITA
Masi/Di Piero
LTU
Gutermann/Gedvilas
NOR
Oie/Hogsnes
ROM
Dancescu/Mateescu
SUI
Schill/Rudin
UKR
Fegir/Stegura
Afrika
N/N
CRO
Vujnovic/Mladinic
ESP
Gallego/Lamas
GER
Thomas/Thomas
GRE
Migas/Bavas
ISL
Amaldssson/Erlingsson
KUW
AIHoli/AINezi
NED
Brussel/van Dongen
NOR
Borresen/Strand
RUS
Makarov/Danelia
SVK
Rancik/Beno
USA
Bojsen/Boehne

世界選手権大会競技運営及び競技力向上対策セミナー
開　催　要　項

1．目　　的　日本ハンドボール協会主催事業のために来日中の国際的に著名なIHF委員を熊本に招へいし、来年の男子世界ハンドボール選手権大会の競技運営及び3年後『くまもと未来国体』に向けた競技力向上のためのセミナーを実施する。

2．主　　催　九州ハンドボール協会・熊本県ハンドボール協会・1997年男子世界ハンドボール選手権大会実行委員会

3．後　　援　熊本県教育委員会

4．日程・場所

平成8年3月15日（金）～17日（日）

15日（金）　熊本市総合体育館・青年会館
　13：00～［世界大会競技運営セミナー］
　15：00 オフィシャル、審判対応等についての実技及び講義

16日（土）熊本市総合体育館・青年会館
　14：00～［競技力向上セミナー］
　17：00　講習Ⅰ（基礎技術）

17日（日）熊本国府高校
　10：00～12：00　講習Ⅱ（setplay）
　13：00～15：00　講習Ⅲ（戦術）

5．講　　師

アラン　ルンド（デンマーク：50歳）
　国際ハンドボール連盟コーチ・方法委員会メンバー
　元デンマーク女子ナショナルチーム監督
　1983年以来、世界各国でIHFが開催する講習会の講師

6．受講対象

15日　　世界大会競技運営スタッフ及び世界ハンド事務局員
16日～17日　県高校生選抜チーム
　　九州及び県内の小、中、高、大、実業団チームの指導者

＊本講習会は公認指導者の義務研修の対象となります。

7．受講料　16日～17日　3,000円

8．申込先

〒862 熊本市水前寺6－3－6 熊本県ハンドボール協会（担当　奥園）
TEL　096－387－1236
FAX　096－387－1253

9．申込期限　平成8年3月4日（月）必着（電話、FAXでも可）

「ハンドボール競技のスポーツ医化学研究報告書」の購入希望申込みについて

1．内容
　1960年～1994年にわたるハンドボール競技の競技力向上を目的とした調査研究報告書でありその主要内容は、全日本男・女選手体力・健康状況やコンディショニングのための運動処方、技術向上・指導のためのバイオメカニクス的分析、メンタルコンディショニングおよびゲーム分析等に関するもので296頁に及んでいる（本誌の目次添付）。

2．申込要項
　別紙申込紙を添えて現金書留にてお申込み下さいますようお願い申し上げます。

3．申込先
〒150－50
東京都渋谷区神南1－1－1
　岸記念体育館内
（財）日本ハンドボール協会
TEL
03－3481－2361
FAX
03－3481－2367

4．価格
1冊　2000円

平成７年度（第19回）全国高等学校ハンドボール選抜大会要項

1．主　　催　（財）日本ハンドボール協会
2．共　　催　全国高等学校体育連盟
3．後　　援　文部省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、（財）愛知県体育協会、（財）名古屋市体育協会、中京テレビ放送株式会社、中日新聞本社、東海ハンドボール協会
4．主　　管　愛知県ハンドボール協会、名古屋市ハンドボール協会
　　　　　　全国高等学校体育連盟ハンドボール部、愛知県高等学校体育連盟ハンドボール部
5．協　　賛　株式会社アシックス
6．協　　力　株式会社モルテン、明星ゴム工業株式会社
7．期　　日　平成８年３月24日（日）～28日（木）（５日間）
8．会　　場　愛知県体育館、枇杷島スポーツセンター、中村スポーツセンター
9．競技規則　平成７年度日本ハンドボール協会競技規則による。
10．競技方法　トーナメント方式とし３位決定戦は行わない。
11．参加資格　ア．都道府県高等学校体育連盟加盟校の在学生徒であること。
　　　　　　イ．選手は平成7年4月以降該当校に在学しており、昭和52年4月2日以降の出生のもので、第3学年を除く。
　　　　　　ウ．チームを編成する場合、全日制課程の生徒と定時制課程の生徒との混成は認めない。
　　　　　　エ．転校後６カ月未満のものは参加できない。ただし、一家転住等の理由によりやむを得ないものは、都道府県高等学校体育連盟会長の許可があればこの限りでない。
　　　　　　オ．同一学年での出場は１回限りとする。
　　　　　　カ．平成７年度に（財）日本ハンドボール協会に登録されたチームで下記により各ブロック等から推薦または予選を経て代表権を得たチーム。
12．参加校　　全国９ブロック等より下記の選抜男、女各32チームとする。
　　　　　　北海道２（北１、南１）東北３、関東５、東京１、神奈川１、北信越２、東海２、愛知１、近畿４、大阪１、中国３、四国２、九州４、開催県１
13．チーム　　１チームの人員は部長１名、監督１名選手14名（14名出場可）とする。
14．申し込み方法
　　　　　　ア．参加申し込みは、所定の用紙に必要事項を記入し、下記ウ宛それぞれ１部書留郵便で申し込むこと。
　　　　　　イ．申し込み締切日　平成８年２月23日（金）必着
　　　　　　ウ．申し込み場所
　　　　　　　〒150 東京都渋谷区神南１－１－１　岸記念体育会館内
　　　　　　　　（財）日本ハンドボール協会
　　　　　　　〒451 名古屋市西区天神山町４－７　愛知県立名古屋西高等学校内
　　　　　　　　全国高等学校ハンドボール選抜大会事務局
　　　　　　　　　TEL　052－522－2451
15．監督主将会議　平成８年３月24日（日）午後１時　名古屋市教育館
16．開、閉会式　開会式は、3月24日（日）午後3時30分より愛知県体育館にて行う。各チームは全員競技服装で参加する。
　　　　　　閉会式は、競技終了後ただちに愛知県体育館にて行う。
17．競技日程　３月25日（月）午前9時30分より、競技を開始する。
18．その他
　　　　　　ア．宿泊については愛知県ハンドボール協会が斡旋する宿泊場所に宿泊することを原則とする。
　　　　　　　１泊２食（朝、夕）8,500 円消費税込み。各チームは所定の宿泊申し込み用紙により、大会申し込みと共に上記の14のウ、全国高等学校ハンドボール選抜大会事務局宛申し込むこと。
　　　　　　イ．ユニフォームは、濃淡のはっきりとした区別の出来るものを２着用意する。
　　　　　　ウ．出場チームは、必ず引率責任者によって引率されなければならない。また引率責任者は選手の全ての行動に対して責任を負うものとし、選手は高校生としての本文を忘れてはならない。
　　　　　　エ．参加選手、役員は、健康保険証を持参すること。
　　　　　　オ．競技中の傷害に対する応急処置は、主催者側で行うが、その後の責任は負わない。
　　　　　　カ．大会期間中の傷害保険については主催者側の負担とする。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三六一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成八年二月二十六日 印刷 平成八年三月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円